

第52回北海道性教育研究大会釧路大会を終えて

北海道性教育研究会
会長 佐野 友美
(札幌市立柏中学校 校長)

今年度は、三つの国定公園を有する雄大な自然に恵まれた釧路市において、11月20日（土）に標記の大会を開催いたしました。道内各地から多くの皆様に御参会いただき、北海道教育庁釧路教育局長 泉野将司様、釧路市教育長 岡部義孝様に御臨席いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

今大会では、大会主題を「自分や相手、一人一人を尊重する性教育の実践～連続性と系統性を意識したカリキュラムの構築」と掲げ、公開授業と研究討議、実践発表を行いました。公開授業を伴う研究大会は実に令和元年度以来6年ぶりとなります。本会は、これまで授業を中心とした実践的な研究活動を行ってまいりましたので、公開授業の再開は大変感慨深く思います。

公開授業は、小学校第2学年の学級活動で題材名「自分・相手の気持ちを大切に」とし、より良い人間関係と心身ともに健康で安全な生活態度の形成を目指して、1学期に行ったプライベートゾーンの学習を生かし、日常で起こる様々なできごとを通して、みんなが楽しい時間にするにはどうすればよいか考える授業を行いました。釧路市立鳥取西小学校 片渕未夢先生の御指導の下、2年2組の子どもたちは積極的に自身の考えを発表し合い、交流を通して考えを深めていく素晴らしい授業となりました。



その後の研究討議では、釧路市立愛国小学校教諭 中村謙太様に司会を、北海道教育庁

学校教育局健康・体育課指導主事 小西亜紀様に御助言をいただきました。

続いて実践発表では、釧路市における「思春期ライフデザイン事業」の取組について釧路市こども保健部健康推進課 越田絵里子様にご発表をいただきました。



釧路市が行っている「思春期ライフデザイン事業」は、社会の変化に併せて、未来を担う子どもたちが性の在り方を理解し、互いの心身を守り、将来、個人が望んだ時期に健やかな妊娠・出産・子育てを可能とすることや、偏見や性暴力・虐待のない社会を実現できる大人へ育成することを目的の一つとしています。発達段階に合わせて行われる体験学習や講座によって自己のライフプラン等、将来のビジョンについて考えを深める機会として、行政と地域・学校の関係職種が一体となり、役割を分担しながら実施しているという実践発表でした。会場からは大きな拍手がありました。

会場校となりました釧路市立鳥取西小学校二瓶明紀校長先生をはじめ教職員の皆様には、心より感謝申し上げます。

本研究会においては「学校教育における性教育」「小・中・高の一貫した性教育」「豊かな人間性」「生きる力」などをキーワードに、これからも全道の皆様と共に研鑽を積んでまいりたいと思います。今後もお力添えの程、どうぞよろしくお願いいたします。

第51回北海道性教育研究大会(函館・渡島大会) 兼 全性連北海道ブロック大会を終えて

北海道性教育研究会
会長 佐野 友美

今年度は11月17日(金)に、自然豊かで異国情緒あふれる函館市において標記の大会を開催いたしました。道内各地から会場にお集まりいただき、また、オンラインを通して画面越しにも多くの皆様に御参会いただきましたこと、そして、北海道教育庁、函館市教育委員会、全国性教育研究団体連絡協議会より、多くの御来賓の皆様にご臨席いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

今大会では、大会主題を『豊かな人間性を支える性に関する指導』とし、副主題を「小・中学校における性教育の進め方」と掲げ、小学校・中学校における実践発表とその研究討議を行い、後半は函館・性と薬物を考える会の会長でおられる湯の川女性クリニック院長 小葉松 洋子 様を講師にお迎えして講演会を実施いたしました。

函館市立えさん小学校 榊原 木の実 先生の実践発表では、養護教諭の立場から、汎用性のある授業案を作成し、担任教諭との関わりを密にしながら全校へ指導の輪を広げられており、3年間にわたり地道に実践を積み重ねられた貴重な事例の発表でした。函館市立赤川中学校 弓庭 美帆 先生の実践発表では、小学校勤務経験を生かした視点から、中学校における性教育を保健体育科だけに留めるのではなく、他教科での学習内容を把握し、配列し、価値付けすることによって、学校全体でより多角的で効果的な指導がなされるように工夫された事例の発表でした。



小葉松様の御講演では、性加害・性虐待に関わる報道を取り上げ、そこからの問題提起や思春期の心と体の発達に関わる事例の紹介、様々な書籍を御紹介くださる中から、学校における性教育と学校と専門家が連携した性教育の在り方について多くの御示唆をいただきました。顔を合わせ、笑顔で対話することで、心温まる思いを感じる大会となりました。



本研究会においては「学校教育における性教育」「小・中・高の一貫した性教育」「豊かな人間性」「生きる力」などをキーワードに、実践的な研究活動を続けてまいりました。現在も、子どもと若者の性に関する様々な社会問題が山積しておりますが、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを目指さなければならないと考えております。

そのためには、性教育の意義をしっかりと認識し、生命尊重や自己肯定感、他者との望ましい人間関係づくりを身に付けさせることが重要であり、子どもの発達段階に配慮しつつ、学校教育全体を通して、意図的・計画的に指導・実践することが大切であると考えます。これからも全道の皆様と共に研鑽を積んでまいりたいと思います。今後もお力添えの程、どうぞよろしくお願いいたします。